

令和3年度 印旛地区教育研究集会 国語教育部会

「話すこと・聞くこと」分散会

成田市立公津の杜小学校 資料編



資料編プロローグ

ここから続くページには、本提案実践のほかに、校内国語研究部会のメンバーが、自主的に行った実践と、本提案では紹介しきれなかった研究実践を掲載していきます。

私たち公津の杜小学校の自主的な実践では、単元構想をたて、それに基づいて授業を行い、他の国語研究部員から授業後にリフレクションシートを受け取って、自らの実践を振り返っていくという手法をとってきました。単元構想の様式は、千国研印旛大会の研究校・会場予定校であった印西市立西の原小学校・西の原中学校で考案されたものを活用しています。

一方、紹介しきれなかった研究実践は、6年の担任が卒業間際に行った「テイクオーバーゾーン」という単元です。ここでは、リテラチャーサークルの方法を参考にして、学習者同士で協働を実現させていこうとした実践です。学習指導案とともに単元で活用してきたワークシート等の資料をつけてあります。少しでも取り組みについて理解してもらいたいという思いからです。

資料編目次

- 単元構想1年「のりものをしょうかいしよう」と、リフレクションシート p1
～新しい発見を「かるた」作りでシェア～
- 単元構想3年「スペシャルな読み聞かせをしてもらおう」と、リフレクションシート p4
～だれに読んでもらう？～
- 単元構想（5年）「AIといきるわたしたちのまち」と、リフレクションシート p7
～AIと生きる未来に向けてCMをつくろう～
- 単元構想（特別支援学級）「大じなことを聞きとろう」と、リフレクションシート p11
～名探偵になろう～
- 研究実践（6年） 「伝える、話す、わたしの言葉、わたしの思い」 p14
～映像メッセージ「テイクオーバーゾーン」をつくる～
 - ・ 学習指導案と授業後の講師の指導
 - ・ 学習資料①「様々な視点で読書を楽しもう」
 - ・ 学習資料②「リテラチャーサークルワークシート」
 - ・ 学習資料③「導入シート」
 - ・ 学習資料④「グループになって映像のリハーサルを行おう」
 - ・ 学習資料⑤「リハーサルワークシート」

1年生 単元構想メモ

1学期の児童の実態

単元名 のりものをしょうかいしよう

～新しい発見を「かるた」作りでシェア～

学習材 ①はたらく じどう車

②「のりものカード」で しらせよう

本単元で付けたい力

〔知識及び技能〕(2) 情報の扱い方に関する事項

ア 共通・相違・事柄の順序など情報と情報の関係について理解すること。

〔思考力・判断力・表現力等〕A 話すこと・聞くこと

ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。

→紹介する情報を選び、相手の反応を見ながら話す力、

新たな情報を楽しみながら聞く力

児童の実態

○児童はこれまでに、『すずめのくらし』で、「問いを立てて答える」という一連の説明の過程を学習した。

○教科書の挿絵について「すずめはかせ」となって説明する経験をした。

○自分のことについて話したがる傾向はあるが、友達の話にはまだ興味が向かない児童が多い。

○伝えたいことや書きたいことがあってもしっかりとした文章を一人で書いたり話したりすることはまだ難しい。

本単元で行う言語活動

○本単元では、学習材「はたらくじどう車」に登場する車について作成した「のりものかるた」のオリジナル版を作成し、互いに知り得た乗り物についての情報を「かるた」を通して紹介し合う学習活動を展開する。

○作成した「のりものかるた」は、①「かるた大会」を開催する ②近隣の幼稚園・保育園にプレゼントして遊んでもらう というような実の場を用意して発信する。

指導計画

総時数 15時間 + 日常のスピーチスキル

	主な学習活動	指導上の留意点
見出す (2)	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな働く自動車を想起し、と図書館司書のブックトークやDVDにより興味を高め、自分が乗り物について知り得た情報を伝え合うという目的を理解する。 ○「はたらくじどう車」に書かれていることの大体をつかみ、学習計画を立てる。 ○いろいろな動物の体の仕組みや生態について書かれている本について知り、並行読書を始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が作成した「のりものカルタ」を解き、他の乗り物についても知りたい・カルタを作りたいという興味をもたせる。 ○「やくわり」「つくり」「はたらき(せつめい)」の構成に気付かせる。 ○乗り物に関する図鑑や絵本・おもちゃを集めた「のりものコーナー」を教室に設置し、読書タイムや常時活動で図鑑や絵本から必要知識や新しい発見ができるように環境を整える。また、乗り物への関心を高めるとともに意欲の持続を図るようにする。
○自分で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ○「のりものかるた」を作って情報を伝え合うという目的をもって学習材を読み、それぞれの「やくわり」「つくり」「はたらき(せつめい)」をワークシートにまとめる。(バス・コンクリートミキサー車・ショベルカー・ポンプ車) 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書に「やくわり」「つくり」「はたらき(せつめい)」ごとの色別サイドラインを引くことにより新しい情報を整理し視覚化させる。 ○個の読みの状況を把握しながら、徐々に自分で取り組ませる。支援が必要な場合は個別に対応していく。

<p>● 広げ深める (10)</p>	<p>○●働く自動車（救急車）について共通の資料を用いて必要な情報を確認しながらオリジナルのかるたを作る。</p> <p>● 自分が紹介したい乗り物について、今までの経験を活かしてオリジナルかるたを作る。</p>	<p>○どんな情報を知るための読み札に入れたらよいかを考えさせる。（「やくわり」「つくり」「はたらき（せつめい）」のパターン化）</p> <p>○自分の知らせたい情報が伝わるか考えさせたり、話合わせたりする。（個人吟味→ペア吟味・グループ吟味）</p>
<p>まとめあげる (3)</p>	<p>○できあがった「のりものかるた」を紹介する準備をする。</p> <p>○「のりものかるた」の読み札と絵札を紹介し合い、新しい発見をシェアする。</p> <p>○「のりものかるた」で遊び、感想を伝え合う。</p>	<p>○主に読み手に重点をおき、話し方の基本、読み札を読む間など、聞き手の反応を想像しながら準備を進めさせる。（+日常の指導）</p> <p>○発表を聞き、情報を得ることで「オリジナルのりものかるた」遊びが楽しめることに気付かせ、聞き手の意識を高める。</p> <p>○「オリジナルのりものかるた」で遊ぶことを通して、互いの新たな発見が伝わった喜び、楽しく認め合う態度を促す。</p>

～MEMO～ 授業者イメージ

話し手と聞き手が協働する国語科の授業を創造する試み

～想像できる話し手と積極的な聞き手を育む～

1 学年ができること

調べたり 発見したりしたことの喜びを分かち合う 伝え合う 他に知らせる 情報のシェア

A: 協働

調べるもの・こと・ひと（動物・乗り物・学校）
 一つのテーマの中で 調べて 聞いて クイズ・かるた作り
 答える 更に知りたいこと

B: 想像できる話し手

どんな風にクイズにしたら・・・かるたにしたら・・・
 話したら・・・ 聞いてくれるかな 楽しくなるのかな
 今、聞いていてどうなのかな わかってくれたかな

C: 積極的な聞き手

そうなんだ はじめて知ったよ よく知ってるな わかりやすいな 真似してみたいな
 こんな風に聞いてもらえたらうれしいだろうな・自然な反応

日常の活動（スピーチなど）
 繰り返しパターン化
 慣れ・自信
 ↓よりよいものに

【授業の実施に関する情報】

- ① 時間：10月12日（月）5校時 授業者：石橋直美 1年1組28名 自教室にて
② 単元名：どうぶつクイズブックをつくろう～自分の発見をクイズで知らせる～

【単元を通してつきたい力と学習指導要領】

- ① 出題したり紹介したりする情報を選んで話す力
② 互いの新たな発見を楽しみながら聞く力

[知識および技能] 共通・相違・事柄の順序など情報と情報の関係について理解すること
[思考力・判断力 A 話すこと] 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと

【授業のリフレクション】

視点① 言語活動(クイズをつくる・出し合う)の妥当性=つきたい力にふさわしいか

・つきたい力①のためには、「……とここが似ていますが、ちょっとちがいます。」とか「……は……ですが、これは全然違います。」と行った文型いれてクイズをつくらせるとよい。もろに[知識・技能]の情報と情報との関係に直結する。

視点② 児童の学びの様相から捉えたこと

・特に「積極的な聞き手」という点は、すごいと思う。あの姿にするまで授業者がどんな手立てをとってきたのかを具体的に記録に残しておくべき。ただし、授業者が考える「積極的な聞き手とはまだギャップがあるようだ。授業者としては、どんな聞き手の姿を望んでいたのか。どんな話し手の姿を望んでいたのか。それと授業の現実の姿を照らし合わせ、ずれを明確にしておくこと。そのために、何人かにターゲットを絞って、その姿で考える
・そのギャップやずれを次に埋めていくためにどうするか。これだけ意欲的に友達のクイズに臨む子どもたちなので、話す技能の向上がその鍵になりそう。

視点③ リフレクション(このあとどうしていけばよいか・どんな手立てを講じるべきか)

・クイズとしての文型をさらに身につけていくようにすべき。それを日常的な帯単元として実践する。(例)「これは○○です。」「○○の◇◇は△△と似ていますが、ちょっとだけ**なところが違います」「では問題です。○○は何でしょう。」この単元をその後に生かして行くには、情報から、事物と事物の似ているところと異なるところをつかんでいくことを徹底して継続し、それをカルタ作りでもいかす。「この車は、人を運ぶ役割をするのは、バスと同じです。でもけがした人や病気になった人だけを運びます。」という読み札。ただしバスに当たる部分は全員が同じような知識を持っていることが条件。仕事・つくり・働き方という視点で読みつつも、他の乗り物のとの比較という視点でも読んで読み札をつくる。読み札を自分のものにして、カルタ遊びの場面では、読み札を見ないで、相手に語るようにしていく。

3年生 単元構想メモ

単元名 スペシャルな読み聞かせをしてもらおう！ ～誰によんでもらう？～
 学習材 モチモチの木（教育出版）

本単元で付けたい力
 〔知識及び技能〕(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
 オ 登場人物の性格や心情の変化を表現するための語句を増やし、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすること。
 〔知識及び技能〕(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
 イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。
 〔思考力、判断力、表現力等〕C「読むこと」(1)
 エ・カ 物語を紹介するために、登場人物の性格や気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて考えたり、読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方には違いがあることに気づいたりすることができる。
 〔思考力、判断力、表現力等〕A「話すこと・聞くこと」(1)
 ウ 話の中心を聞き手にわかりやすく伝えるために、言葉の抑揚や強弱、間の取り方、相手を見る視線等について考え、工夫すること。

児童の実態
 ○物語文を読み、登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりとともに捉えながら読んできた。また、会話や行動、叙述をもとに登場人物の性格や気持ちの変化を読み取ることができるようになってきている。
 ○物語文を読み、お気に入りの根拠をもとに説明している。
 ○自分の思いや考えを、つなぎ言葉を使って、簡単な構成で書くことができる。
 ○音読・スピーチ等で相手のことを考えたり、抑揚をつけたり、間を工夫したりして話すことは、まだまだ不十分。

本単元で行う言語活動
 ○本単元では、斎藤隆介さんの作品を読み、物語についてチームでプレゼンテーションを行い、ピピリオバトル形式で読み聞かせを実現させていくための言語活動を行っていく。物語のプレゼンテーションをする中で、チームの中で担当を決め、登場人物やあらすじについてまとめたり、地の文の表現に目を向け紹介していくことで、言葉にこだわったり、物語全体の魅力を惜しみなく表現できるように思考する必要がある。
 ○自分の言葉でプレゼンテーションを行う際には、聞き手を読みたくさせるためには、紹介する順序や話し方（抑揚・視線・速さ・間等）、聞き手を巻き込む表現方法に着目して、子どもたち同士でより効果的な方法を思考していけるようにする。（論理的思考と身につけたい表現参照）
 ○年度当初から書きためている「言葉辞典」を活用し、物語を表現するための言葉選びをしていく。自分の感じ方をより表現できる言葉を吟味し、自分の言葉で表現することを楽しみながらプレゼンテーションをしていけるようにする。
 ○チームでプレゼンテーションを行っていく際に、タブレットを用いて、自分たちのプレゼンテーションについて見直していく機会を設ける。自分たちのプレゼンテーションの様子を客観的に見ることで、話し方についてさらに考えを深めたり、アドバイスし合ったりしながら協働していけるようにする。友だちと協働する中で、新しい表現の仕方に気づいたり、自分の表現に自信をもったりすることができると思う。

指導計画

総時数 11時間

	主な学習活動	指導上の留意点
見出す ①	<ul style="list-style-type: none"> ○教師のプレゼンテーションを見て、学習のゴールを明確にし、見通しをもつ。 ○同じ文章でもひとり一人の感じ方の違いがあることを感じる。 ○「あらすじ」について確認し、中心人物の変化やその変化のきっかけとなる出来事に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師見本を用意し、「あらすじ」「地の文」について確認する。 ○教師見本のポスターから、感じる印象を児童にも聞き、それぞれ感じ方には違いがあることを知る。
○自分で取り組む ⑤	<ul style="list-style-type: none"> ○「モチモチの木」を読み、登場人物の性格、気持ちの変化について読み取る。 ○登場人物の変化を整理していけるよう、場面ごとに「今日のじさまと豆太」を書き残していく。 ○「モチモチの木」を読み、豆太の行動や会話から、豆太の変化と変化のきっかけとなった出来事を読み取り、大体のあらすじをおさえ、自分の言葉でまとめる。 ○繰り返し出てくる言葉に着目し、気持ちの変化や人物の性格を捉えるのに役立つ。 ○「言葉辞典」をもとに、言葉を吟味しながら、豆太やじさまについてまとめていく。 ○地の文の表現に注目し、おもしろい表現・気になる表現・どきどきする表現等を見つけ、謎を解いていく。 ○並行して自分の好きな本を見つけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「モチモチの木」を読み取る場面では、豆太の行動や会話、複数の叙述をもとに豆太の性格や気持ちの変化を根拠を明確にして読み取っていけるようにする。また、場面を結びつけていくことで、豆太の境遇や置かれた状況等も含めて捉えられるようにする。 ○豆太の変化を追いながら、物語が起承転結になっていることを知り、お話には山場があることを確認する。 ○「今日のじさまと豆太」を書き残していく際には、どの文章や言葉からそう考えたのか根拠を明確にしなが言葉による見方・考え方を動かせ、作品を読んでいけるようにする。 ○斎藤隆介作品を並行読書し、たくさん作品に触れ、読書の幅を広げながらプレゼンテーションをする本を決められるようにする。 ○表現の仕方や言葉の違い等に目を向けることで、物語の世界がさらに広がることに気づけるようにする。 ○表現することの楽しさを感じ、自分の言葉で表現することの良さを感じさせる。

<p>●広げ深める(3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●グループごとに選んだ本の登場人物・あらすじ・地の文の表現に着目しながら、物語を分析していく。 ●自分が思うあらすじ・おススメの部分を相手に伝えるためには、どう話せばよいかポイントを考える。 ●自分なりにまとめた台本をもとに、抑揚・強弱・間・視線を意識しながら友達に伝える。 ●聞き手となった時には、積極的に反応し、共感したり、指摘したり、感想や質問を伝えあったりしながら、話し手の新たな考えを見つけるヒントとできるようにする。 ●自分の発表を振り返り、感じたこと、思ったことを次に生かしていけるようワークシートに書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の考えと友達の考えを比べながら、受け入れたり、比較したりし、聞き手が読みたくなるような表現について合意形成を図りながらまとめていくよう声をかける。 ●論理的思考と身につけたい表現を参考にすることにより、さらに物語の魅力を聞き手にわかりやすく伝えられるよう、確認しておく。 ●つなぎ言葉を入れたり、聞き手への呼びかけ、お誘い等を入れたりしながら、聞き手を巻き込んだ話し方になるよう声をかける。伝える時には抑揚や強弱、間、視線を工夫したりすることで、更に相手の心に響くようになることを確認する。(マークを入れておく) ●話すことが苦手な児童への支援(様子を見て子どもと相談する) ●自分の話し方をタブレットで録画し、客観的に自分を見ることで、視覚的に確認しながらアドバイスし合い、話し方を考えたり、視線等を考えたりできるようにする。
<p>まとめあげる(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとに発表を行う。 ○聞き手は、各グループの発表を聞き、どの本が一番読みたくなったかを常に考えながら、発表を聞く。 ○全部の発表を聞き終えた後、最終的に読みたくなった本はどれか投票する。 ○1位になったチームの本をスペシャルなゲストに読み聞かせしてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自信をもってつたえることができるよう、練習時間を確保しておく。 ○内容だけでなく、話し方等にも注目して、純粋に本を選んでいけるよう声をかける。 ○友だちに伝えてみたことで、感じたこと等を振り返り、言葉で残しておけるようワークシートに書くよう声をかける。 ○単元の振り返りを行う。

【授業の実施に関する情報】

- ① 時間：12月18日（金）2・4校時 授業者：高橋憲子 3年1組32名 教室にて
 ② 単元名：スペシャルな読み聞かせをしてもらおう！～誰によんでもらう？～

【単元を通してつきたい力と学習指導要領】

- ① 登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりとむすびつけて、想像しながら読み取る力。
 ② 物語を紹介するために、登場人物の性格や気持ちの変化について捉え、大体のあらすじを読み取り感想や考えをもつ力
 ③ 物語の良さを相手にわかりやすく、話し方を工夫して伝える力。

【知識および技能】

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。

イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。

【思考力・判断力・表現力等】

A 話すこと・聞くこと

ウ 話の中心を聞き手にわかりやすく伝えるために、言葉の抑揚や強弱、間の取り方、相手を見る視線等について考え、工夫すること。

C 読むこと

エ・カ 物語を紹介するために、登場人物の性格や気持ちの変化について、場面の移り変わりと結びつけて考えたり、読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方には違いがあることに気づいたりすることができる。

【授業のリフレクション】

視点① 言語活動(物語のおすすみをリーフレットにまとめて紹介する)←ありますか？の妥当性

=つきたい力にふさわしいか

ビブリオバトルの手法を取り入れた素晴らしい実践だったと思います。話し手の出題する問いかけ、聞き手からの質問への返答から、つきたい力②がよく身につけており、物語を大枠と細部の両面でもらえられていることがよくわかりました。

視点② 児童の学びの様相から捉えたこと

聞き手の中に、前の児童がたずねたことに対しての話し手の返答を記憶し、自分の考え(情報)と関連付けて考えを述べている児童がいました。「主体的で対話的で深い学び」の「深い学び」の部分にあたる姿だと感じました。

視点③ リフレクション(このあとどうしていけばよいか・どんな手立てを講じるべきか)

2時間目・4時間目を参観させていただいて、質問を考えていても全体の場では発言できていない児童がいるのではないかと思います。テンポよく流れていたのも、新たな活動を入れるのは難しいと思うのですが4人出題するうち、誰か一人の時(例えば登場人物の時)、隣同士で対話し、そのあと質問する等、聞き手の立場として誰かに自分の考えを伝える場があってもよいのかなと思いました。

話す・聞く力が着実に付いていることを感じる授業でした。ありがとうございました。

5年生 単元構想メモ

単元名 AI と生きる わたしたちのまち
 ～AI と生きる未来に向けて CM を作ろう～
 学習材 AI とのくらし

本単元で付けたい力

【知識及び技能】(2) 情報の扱い方に関する事項

ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解し、必要な事柄を取捨選択して思考をまとめること。

【思考力・判断力・表現力等】A 話すこと・聞くこと

ウ 話の内容をわかりやすく伝えるために、資料を活用したり相手の興味・反応を意識したりして、表現を工夫すること。

オ 話し合いを通して達成しようとしている目的を共有し、聞き手に与える印象を意識しながら、思考に関わる語句を用いて、考えをまとめたり広げたりすること。

児童の実態

○4年時には、「よりよい話し合いの仕方」の学習で、相手の話をよく聞き、意見に対する自分の立場を明確にして発言することを意識して話し合いを行った。

○5年時には、自分が住む市の良さを3年生に推薦することを目的として、聞き手の立場にたち、相手が納得するような話の構成を考えた。

○相手の様子や反応を捉えながら話ができる児童・・・・・・・・・・12%

○相手が伝えたいことと自分が必要としていることを中心に話を聞くことができる児童・・・・・・・・・・37%

本単元で行う言語活動

○本単元では、まず始めにこれからの社会を生き抜いていく子どもたちが向き合っていかなければならない、「人工知能(AI)とのくらし」について、利点・問題点の両方の立場から考え、ミニディベートを行うという学習活動を展開する。

(教育出版以外の教科書会社でも

【テクノロジーの進歩について考えよう 「弱いロボット」だからできること】(読む)

【自分の意見をもって読もう わたしたちとメディア 「インターネット コミュニケーション」】(読む)

のように、社会の中で飛躍的に進歩し、変化をとげるAIに目を向け、一人一人に考えさせる教材を位置づけている。(改訂の経緯の中にもあげられている。)このような背景を経て、今回この教材に重点を置き、「話す・聞く」において「広げ深める発展的な学習」を展開していきたいと考えた。

○次に、「広げ深める発展的な学習」として、一度「ミニディベート」のためにAIについて情報収集し考えた児童の主張を「AIと共に 公津の杜をみんなが住みよいまちにしていこう」という「福祉」の視点からもう一度見直し、新たな考えをCMという形でリメイクする(生み出す・再構築する)学習活動を展開する。

「福祉」については、前期の総合的な学習の時間に「障がいを理解しよう」という単元のもと、それぞれがテーマを決めて調べ、新聞に内容をまとめるという学習をしてきている。

「AIについて学んだ国語科」の学習、「福祉について考えた総合的な学習」の中でそれぞれ培ってきた学びをここで関連付ける(情報と情報を結びつけ比較・分類・再構築する)中でこれからの社会の問題と向き合い、新たな価値を生み出すことができるのではないかと考えた。

(学んだことをこれからの社会にどのように生かすか生かせるのか

持続可能な社会の担い手として必要な思考力・判断力・表現力を育みたい。)

各教科の内容を横断的な視点で組み立てていくことは、組織的・計画的に各学校の教育活動の質の向上を図るための「カリキュラム・マネジメント」にもつながると考える。

「協働」の場面では・・・「同じ目的(AIと共に 公津の杜をみんなが住みよいまちにしていこう)のもと、それを達成するために「話す・聞く」ことへの意欲を高め、双方向のコミュニケーションが成り立つことようにしていく。

○リメイクした提案内容(考え)は、

①ADKグループへ送る。

②もりんピアに展示してもらう。

③校内にパソコンを置き、誰でも「公津の杜 AI未来CM」をみられるような「実の場」を用意して発信する。

今回は③の形で提案を行っていく。

日常的言語活動

○理解言語、使用言語を増やし豊かな語彙力、説明力を育むためのトレーニングを取り入れる。

(言葉の言い換え大会、教師や友達の話の要約タイム、「論理的思考と身につけたい表現」を活用した各教科で説明・意見交流会等)

	主な学習活動	指導上の留意点
見出す (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・論題「AI との暮らし」に対して、利点・問題点の情報収集の後、両方の立場に立って、ミニディベートを行うという目的を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIに関する写真(ロボットと農業)(ロボットと将棋)を見せる中で「AIとの暮らし」という議論の論点をつかむ。 ・自分たちの「話し合い」について振り返りし、「話し合いの課題」をつかむ。 ・ミニディベートの用語や意義を理解させるとともに、学習過程について話し合うことで、学習活動の見直しをもつ。
<ul style="list-style-type: none"> ○自分で取り組む(4) ●広げ深める(3) 	<ul style="list-style-type: none"> ○AI に関する利点・問題点の両面から「主張」の論拠となる情報を収集する。 ○自分の考えを表に整理し、まとめていく。 ○収集した情報の中から聞き手の想像を助ける視覚資料を作成する。 ○ミニディベートを行い、立場の異なる相手の意見を聞いたり、質問・反論したりする。 ○聞いて考える役は、双方の立場を聞いて、どちらがどのように説得力があったかを述べる。 ○自分の学びを振り返り、書きまとめる。 ●「お年寄りと体操」しているAI の写真を見せる。 ●AI について構築してきた考えをもとに、「公津の杜AI 未来CM」を作成するという目的を理解する。 <p>※自分たちの地域の課題と向き合う。 ※福祉の立場から「これからの未来にどのようなAI が必要なのか」を考える。 ※ここまでの学習で形成してきたAI に関する様々な側面からの考えをもとにAI が公津の杜で「福祉」の立場から生かされる未来を提案する原稿を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●原稿ができた児童から、タブレットに自分が提案している様子を映し、相手に伝わる内容になっているかや表現の工夫についての確認をする。 <p>(IT 機器・タブレットの活用) 提案時間：一人2分 フリップ：2枚(両面)まで</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集する際には、情報リテラシーの一環として信頼できる情報とは何かを考えたり、自分の考えを支える必要な情報を精選していったりすることを確認する。 ・説得力のある論理展開にするために、相手の反論を想像し、加味しながら自分の考えを「主張」「理由」「根拠」で構成していくよう促す。 ・フリップ1枚に利点・問題点の根拠となる内容をそれぞれ両面に掲載する。 ・相手を論破することが目的ではなく、相手の意見をよく聞き、理由や根拠に疑問点があれば、質問していくという捉え方であることを確認する。 ・聞き役は、進行表に自分の考えを付箋に書いたり、語句と語句をつなげて図式化したりしながら、話し手の工夫や良さについて話す準備をするよう促す。 ・学びを振り返り、今後生かしていきたい話し手の工夫や次に話す時に向けての展望を言語化して残していく。 ・AI について自ら情報収集したこと、ミニディベートで新たに得た知識(AI を利点・問題点という多面的に捉えた考え)を生かして、新たに「福祉」の視点からAI が自分たちの町をどのようによりよくしていけるかを想像し、「私たちの町の未来CM を学級全体で作り、提案という形で発信する」というゴールをつかませる。 <p>※どのような方がどのような場面で、困りを感じているのかを町の様子を想起しながら具体的に考えさせる。 ※総合的な学習「福祉」と国語科「AI との暮らし」で学習してきた内容を踏まえて、今あるAI の機能でできる部分と今後必要になってくる部分を明確にし、それを提案に生かせるように書きまとめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ※自分の提案内容の論拠となるフリップ(両面)を作成する。 ・わかりやすく伝えるためには、「論理的思考と身につけたい表現」(思考に関わる語句)の中のどの表現を使えばよいのかを選択させ、自分の主張の構成について考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・話す際の表現の工夫(視線をあげる・間をとる・フリップの上げ下げのタイミングや強弱・抑揚)については、それぞれマークを決め、原稿を見た際にわかりやすく、また自分で振り返った際に加除修正がしやすいようにする。 ・映像を観ながら、話す際の表現の工夫(視線をあげる・間をとる・フリップの上げ下げのタイミングや強弱・抑揚)や聞き手の反応を意識・想像した内容になっているかを客観的な視点で、確認させ、原稿に加除修正しながら振り返るよう促す。
※総合的な学習(3)		

	<p>●グループングして提案を聞き合い、話し方や内容について話し合う。</p> <p>グループの人数：3人 一人の提案を2人で聞き、内容の伝わりやすさ、表現の工夫、思考に関わる語句が使われているかに焦点をおいて助言し合う。</p>	<p>・話し手は相手の反応を見ながら印象的に伝わる工夫について、聞き手は、相手の話し方の工夫のよさ、相手の話し方・考え方を更に深められる新しい視点について考えながら聞くことを確認する。</p> <p>視線をあげる・間をとる・フリップの上げ下げのタイミングや強弱・抑揚といった話す際の表現の工夫や聞き手の反応を意識・想像した内容になっているか、思考に関わる語句(論理的な表現)が使われているかについて</p>
<p>まとめ あける (1)</p>	<p>●提案を録画し、発信する準備をする。 ●公津の杜 AI 未来 CM を発信する。</p> <p>※PCに公津の杜のマップ(児童が描いた絵)を掲載し、様々な箇所にあるマークをクリックするとそれぞれの児童のCMが流れ出す形での発信。</p>	<p>・PCの横に掲示する自分たちが思い描いた未来の公津の杜であることや思わずクリックして開いてみたくなるようなキャッチフレーズを作成する。</p>

【授業の実施に関する情報】

① 時間：12月15日(火)4校時 授業者：桃木 愛子 5年4組37名 教室にて

② 単元名：AIと生きる未来に向けて CMをつくろう

【単元を通してつきたい力】

〔知識及び技能〕

(2) 情報の扱い方に関する事項

ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解し、必要な事柄を取捨選択して思考をまとめることができる。

〔思考力・判断力・表現力等〕A 話すこと・聞くこと

ウ 話の内容をわかりやすく伝えるために、資料を活用したり相手の興味・反応を意識したりして、表現を工夫することができる。

オ 話し合いを通して達成しようとしている目的を共有し、聞き手に与える印象を意識しながら、考えをまとめたり広げたりすることができる。

【授業のリフレクション】

視点① 言語活動の妥当性

=つきたい力にふさわしいか

- ・それぞれが自分の「未来に実現化してほしいAI」を既習の観点をもとに考えることができている、情報の精選はどの子ども必然的に行っていたのではないかと思うので妥当な活動だと思います。

視点② 児童の学びの様相から捉えたこと

- ・一人分しか見ることはできなかったのですが、話し手は自分なりに考えた台本をもとによく意識して取り組んでいました。また、聞き手もそれぞれの担当という意識をもって、担当ごとの観点をもとに聞くことができていたと思います。
- ・聞き手の役が変わったときの様子が気になり、続きが見たいと思いました。
- ・思考ツール等を使い、子どもたちなりに自分の役割を一生懸命果たそうと頑張る様子が見られました。たくさんの資料がある中、そつなくこなす姿がやはり5年生と感じました。

視点③ リフレクション(このあとどうしていけばよいか・どんな手立てを講じるべき)

- ・話し手が言い終わってからのアドバイスだったので、言っている途中にカンペみたいな感じで「もっとゆっくり」等アドバイスがあったら、話し手もより今、目の前にいる聞き手を意識して話すのではないかと思います。
- ・何人かの児童は、メモに「視線◎間△」のように簡潔に書いていました。そこからまた、伝えるにあたり自分なりに言葉を選び書き換えていたので、自分の用紙に書くものはメモでもいけるのかなと思いました。優しい子が多く、良い点だけのチームもあり、アドバイスがない場合はどうなっていくのか気になりました。
- ・4時間目ということもあり、ワゴンが通ったり、近くの班の声が聞こえてしまったりする場面が見られました。聞き手が乗り出して耳を傾ける姿に意欲を感じましたが、より環境のよい場所でグループ活動ができるともっと洗練されたものができあがるのではないかと感じました。

台本の時点での完成度なので、CMのできあがりがとても楽しみです。できたらぜひ見せてください(・v・)
お忙しい中、参観させていただきありがとうございました。

スマイル4組 単元構想メモ

単元名 大事なことを 聞き取ろう
 学習材 名探偵になろう

児童の実態
 ○関心を向けることが難しい内容については、話を聞くことが苦手。集中できる時間の短さ、ワーキングメモリーの低さなど要因は様々である。
 ○自分の興味があることは、積極的に話すが、一方的なことが多い。
 ○話の内容に興味をもつと、質問したり相槌を打ったりしながら聞くことができる。
 ○話したいことがあっても言葉が出てこないことから、上手く話せない。途中で何を話しているのか、わからなくなってしまうことがある。

本単元で付けたい力
 ○必要な事柄を考えて、簡単な文章を書くことができること。
 ○話の内容に興味をもって聞くことができること。
 自立活動とのかかわり
 〈学習活動〉
 ○友達の話を最後まで聞き、「迷子探しゲーム」をする。
 〈関連する自立活動の項目〉
 「6 コミュニケーション」
 (2) 言語の受容と表出に関すること。

本単元で行う言語活動
 ○本単元では、一人一人が名探偵になり、迷子になった友達を探すために、アナウンスの文章を書く。単元の導入で、教師が、迷子を見つけるために必要な事柄が書いていない文章と必要な事柄が入っている文章を読み上げ、児童が迷子を探す。その後、読み上げた文章を提示して比較し、わかりやすい文章にするためには、どのような事柄を入れて文章を書いたら良いかを考える。
 ○始めに、アナウンスの文章を書くために必要な事柄を、一つ一つ付箋に書く。その後、どの順番に必要な事柄を伝えたら良いかを考えながら付箋を並び替え、順番が決まったら文章に書き換えていく。その際、常体で書く児童がいることが考えられるため、アナウンスで文章を読み上げる時は敬体に直す必要があることに気付かせる。
 ○アナウンスの文章が完成したら、ペアや学級全体で「迷子探しゲーム」をする。迷子を見つけるためには、友達の話を最後まで聞くことが必要である。「聞いて答える」というゲーム形式にすることで、「話を聞く」という意識をもてるようにする。また、全員が、「友達の話を最後まで聞いて、迷子を見つける」というめあてを共有することで、興味をもって話したり聞いたりすることができると考えられる。
 ○「聞く力」を高められるように、国語科の学習や自立活動の時間に、聞き取りワークやクイズ作りに取り組む。

指導計画

総時数 5～6 時間 + 日常の聞き取りワーク

	主な学習活動	指導上の留意点
見出す (1)	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が作った「迷子探しゲーム」に取り組み、今後の学習への見通しをもち、自分たちでゲームを作って交流することを知る。 ○教師が作った2つの文章(迷子を見つけられるものとそうでないもの)を比較し、同じところや異なるところを見つける。 ○わかりやすい文章を書くために必要な事柄を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クイズやゲーム形式の学習に興味をもつ児童が多いことから、「名探偵になって、迷子を見つけよう!」という設定にすることで、本単元への興味・関心を高める。 ○クイズが終わったら、教師が2つの文章(迷子を見つけられるものとそうでないもの)を提示し、それらを比較することで、文章を書く時に必要な事柄に気付けるようにする。 ○日頃から、上手に話したり聞いたりするために大切なことを取り上げ、本単元では普段心掛けていることを振り返るようにする。 <p>(話し手)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一文ずつゆっくり話す。 ・最後まではっきりと話す。 ・相手に体を向けて話す。 ・相手に聞こえる声の大きさと話す。 <p>(聞き手)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て聞く。 ・静かに聞く。 ・最後まで聞く。 ・「ああ」「なるほど」「そうか」など相槌を打ちながら聞く。

<p>○アナウンスの文章に必要な事柄を確かめ、個人で簡単なメモを書く。 (必要な事柄) ・性別 ・大体の年齢 ・服装 ・持ち物 など</p> <p>○どの順番に必要な事柄を伝えたら良いかを考えながら、付箋を並び替える。</p> <p>○順番が決まったら、アナウンスの文章を書く。</p> <p>●出来上がったアナウンスの文章をもとに、1回目の「迷子探しゲーム」を行う。</p> <p>●1回目のゲームを振り返り、アナウンスの文章に書かれている内容や順番で迷子を見つけることができたか、相手が聞き取りやすいように話せていたかを振り返る。</p> <p>○●1回目の振り返りを受けて、アナウンスの文章を書き換え、必要な事柄が書かれているか確認する。</p> <p>○●聞き手が聞き取りやすいように、「情報は一つ一つ」「ゆっくり」「大きな声で」話すなど、ポイントを意識しながら話す練習をする。(個人→ペア)</p>	<p>○アナウンスの文章を書くために必要な事柄を短冊に書いて掲示し、いつでも振り返られるようにする。</p> <p>○児童それぞれに3枚ずつ、様々な人物のイラストを渡す。実態に応じて難易度を変えるため、「全く異なる人物のイラスト」や「似たところがある人物のイラスト」など、配布するイラストを工夫する。</p> <p>○メモを書く時は、児童の思いを大切にし、必要な事柄を確認しながら自由に書けるよう声をかける。</p> <p>○一人で書くことが難しい児童は、教師と一緒に書く。</p> <p>○メモがよく書けていること、自分の力で書くことができた姿を称賛し、聞き手が楽しめるような「迷子探しゲーム」になるように、アナウンスの文章を書いていこうと意欲を高める。</p> <p>○迷子を早く見つけてもらうために、大事な事柄を落とさないで書くように伝える。</p> <p>○「どの順番に伝えたら、より早く迷子を見つけられるか」「最後まで聞き手を迷わせるような順番はどれか」など、児童の実態に応じて助言する。</p> <p>○アナウンスの文章を書く時には、必要な事柄を書きやすい穴埋め形式のワークシートと罫線だけのワークシートを用意し、個々に選べるようにする。</p> <p>○話し手は、聞き手が聞き取りやすいように、話す時のポイントを考えながら話すように声をかける。</p> <p>○迷子を見つけられなかったペアには、アナウンスの文章に取り入れた事柄が足りているか吟味させる。</p> <p>○聞き取りやすい話し方のポイントを確認しながら、相手の話し方について良かったところや、より良い話し方にするためのアドバイスを伝える。</p> <p>○情報が足りなかった児童には、他にどのような情報が必要かペアで協力して考えさせる。</p> <p>○アナウンスの文章を読んでいる様子を動画に撮り、自分自身の話し方を振り返られるようにする。</p> <p>○全員で動画を見て、互いに感想やアドバイスを伝える。</p>
<p>○完成したアナウンスの文章を使って、ペアや学級全体で「迷子探しゲーム」を行う。</p>	<p>○アナウンスの文章を最後まで聞いてから答えるように助言する。</p> <p>○次にどのような活動がしたいかを児童に尋ね、本単元を発展させた次の学習への興味をもたせる。</p>

授業リフレクションシート

【授業の実施に関する情報】

- ① 時間：11月19日（木）5校時 授業者：濱田先生 スマイル4組4名 教室にて
- ② 単元名：大事なことを聞き取ろう 名探偵になろう

【単元を通してつきたい力と学習指導要領】

- ① 必要な事柄を考えて、簡単な文章を書くことができる力
- ② 話の内容に興味をもって聞くことができる力

〔知識および技能〕 (2) 情報の取り扱いに関する事項

ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

〔思考力・判断力・表現力等〕

A 話すこと・聞くこと

ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。

エ 話し手がしらせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。

B 書くこと

ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。

【授業のリフレクション】

視点① 言語活動(迷子さがしゲームで問題をだす・答える)の妥当性

=つきたい力にふさわしいか

・つきたい力①では、考え、書くことが今回の形（放送原稿）になるまでに、どのような手立てをとっていったのか知りたいと思いました。内容が精選されていてわかりやすく、②の力とうまく結びついていたと思います。もう少し、複雑な迷子さがし（特徴・背景）があっても対応できる児童もいたような気がしました。すべて参観させていただいたわけではないので的外れだったらごめんなさい。

視点② 児童の学びの様相から捉えたこと

・子どもたちの興味・集中力をあげるための場の設定を一生懸命に考えていた濱田先生の姿が掲示・マイク等の小物から感じられました。子どもたちも頑張っていたのではないかと思います。いつもと違う環境の中でこの姿はきっと今までの積み重ねだと思います。少々おとなしい？感じがしました。積極的な聞き手をとということであれば、視点①に書いた複雑な迷子探しにして、迷わせる・悩ませる・もっと知りたくなるような素材にしていくとよいのかもしれません。ただ、学年や力もそれぞれなので悩んだのでは？と察します。

視点③ リフレクション(このあとどうしていけばよいか・どんな手立てを講じるべきか)

・教室のあたたかさを感じました。お互いを認め合う場面がすてきでした。4人という少人数なので、つけてきた力をもとにペアでのやりとりができたり、それぞれに役割をあたえてみたり、個の力が発揮できるような授業があったらおもしろいかなと思いました。あとは視点①②に書かせていただいた複雑なものだにより聞く意欲の向上（逆も有り得るかも・・・）が目指せるような気がします。

- 1 単元名 伝える、託す、わたしの言葉、わたしの思い
～ 映像メッセージ「テイクオーバーゾーン」をつくる ～

2 単元について

(1) 単元観および系統

本単元は、次年度学校を担う5年生に向けて、卒業していく6年児童が映像メッセージをつくっていくという学習である。ここでは以下に示す力を身につけさせていこうと考えている。

- ① 原因と結果など、情報と情報の関係について理解し、思考に関わる語句を使って、適切に表現する力 [知識及び技能(2)情報の扱い方]
- ② 5年生に伝え、託す内容を考え、それを端的に表現した言葉を探して、言葉と経験、言葉と思いを関係付けた筋の通った文章を書く力 [思考力、判断力、表現力等B書くこと ア及びイ]
- ③ いったん書いた文章を、聞き手のことを想像しながら、ト書きなどを加えた制限時間で収まる口頭原稿に書き換える力 [思考力、判断力、表現力等A話すこと・聞くことイ及びウ]
- ④ どうすれば少しでも視聴者にわかりやすく伝わるパフォーマンスになるか、コメントする力 [思考力、判断力、表現力等A話すこと・聞くことエ]

上記からわかるように、本単元は、「書くこと」と「話すこと・聞くこと」の要素を盛り込んだ単元である。そこで、次に、本単元の関連する児童の学習履歴を示す。

まず、「書くこと」では、5学年において、意見文と提案文という表現様式を学び、事実と考えを論理的に結びつけた文章を学習した。続く6学年では、随筆という新たな表現様式と出会い、自分の思いを情景と結びつけて書くことを学んだ。そして、「説得力」をめざした意見文に挑戦するとともに、書評という新たなジャンルを学習した。

一方、「話すこと・聞くことでは」、雑駁に総括すれば、5学年では、「推薦する」・「発表する」といった話し手の力を高めることにシフトした学習に多くの時間をかけた。続く6学年になると、「話し合う」、「対話」といった双方向のコミュニケーション力を高めていく学習を経験してきた。

本単元では、こうした学習履歴を生かし、まず、事象と自分の思いを結びつけた文章を書き、それを他者に発信する表現様式(以下、シナリオと称す)にリメイクするという言語活動を試みる。その上で、シナリオをもとに、来年度母校を担う5年生に向けて映像メッセージをつくって発信する言語活動を展開する。名付けて「映像メッセージ“テイクオーバーゾーン”」。具体的には、「5年生のみなさん、私がみなさんに託したい言葉は“痛みなくして、得るものなし”英語で言おうと、No pain, No gain. という言葉です。なぜその言葉選んだか。それは・・・」といったかんじのメッセージ文から、「(視線をまっすぐに)4月から最高学年になるみなさんへ、わたしはこの言葉を贈ります。(フリップ提示・間をとる)・・・」といった映像のためのシナリオ文をつくっていくというイメージである。映像メッセージ“テイクオーバー

ーン”」のポイントは、以下の2つである。

- ① 書き言葉の文章から、話し言葉の原稿へと書き換えることで、相手意識と目的意識を強まらせていく。
- ② 他者の表現に切実に関わる聞き手の実現を図る。

上記の2点を授業者が自覚しながら指導を展開していくことで、本校がめざす「想像する話し手と積極的な聞き手」の姿を現実のものとしたい。

(2) 児童の実態

以下の点についての実態の把握に努めた。

ア つけたい力に関する実態

イ 単元で展開する言語活動の準備状態に関する実態

具体的な調査の結果については、本指導案の最後に資料として掲載した。以下、調査結果を総括して述べる。

上記アに関して言えば、まず段落相互の関係性は理解できるものの、それを反映させて結びつける表現を生み出すことは児童にとってむずかしく、手立ての必要性があることがわかった。また、話すことにおいては、伝わりやすさの条件として、聞き手の注意を引く行為は児童の認識にないことがわかった。これについては、モデルの提示を通して学習させていくことが望ましいと考える。さらに、他者の話しぶりに対するコメントの多くは、声の大きさやスピードを、わかりやすさ・伝わりやすさの主な基準として考えている児童がほとんどであることがわかった。わかりやすさや伝わりやすさを評価する新たな視点の構築の必要性が浮かび上がった。

一方、本単元の言語活動に対する準備状態の実態から、いくらかの児童は満を持してこの学習に臨んでいけそうだが、そうでない児童も一定割合存在する。したがって、メッセージ文を書くときから、できるだけ書きやすいようにしていく必要がある。統一した文章構成を強いることは避けるべきだろう。

ただ、子どもたちは、一抹の不安を抱えながらも、これから始まる学習活動に期待と楽しさの予感を抱いていることがうかがえる。学年最後の単元に、楽しさの予感が的中するように授業を積み重ねていきたい。

(3) 指導観

以上の実態を踏まえ、以下の点に留意して指導にあたる。

- 単元に入る前に、情報と情報をつながりよく述べていく力をつけるために、朝の読書の時間を活用し、段落の冒頭が欠落した文章を提示し、どんな言葉で段落同士を結びつけていくとよいかを考えるドリル学習を取り入れていく。
- メッセージ文のモデルは、文章構成の異なる複数のモデル文を提示し、それぞれが書きやすいスタイルを選べるようにする。同時にオリジナルな構成も認める
- 映像メッセージづくり（シナリオ作成）にあたっては、制限時間2分とフリップ3枚使用という制限を設け、伝えたいことの重点を精選させていく。
- 映像メッセージの作成には、少なくとも3人の他者が聞き手となり、独立した視点でのアドバイスをもとにメッセージの洗練を図り、他者との協働を実現させる。
- 独立した視点でコメントを述べ合う学習には不慣れなため、単元前に、リテラチャーサークルを繰り返して体験させておく。

3 単元の目標

- 自分の文章に含まれる内容（情報）のまとめり同士の関係を適切に結ぶ表現を探し出すことができる。 [知識及び技能（2）情報の扱い方に関する事項イ]
- 5年生に伝えたい言葉とそこに引き続く内容が、わかりやすくつながっているメッセージ文を書くことができる。 [思考力、判断力、表現力 B 書くこと（1）エ]
- メッセージ文を、聞き手を想像して、視聴者の注意を効果的に引くためのメモを盛り込んだシナリオに書き換えることができる。
[思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くことイ及びウ]
- 与えられた視点から他者の表現に対する具体的なアドバイスをすることができる。
[思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くことエ]
- どのようにすれば、視聴者に自分のメッセージがわかりやすくはつきりと伝わるか考えながら、次にすべきことを自分で問い続けながら学びを進めようとする。
[主体的に学習に取り組む態度]

4 指導計画（9時間扱い）

学習過程	次	時配	学習活動	評価規準
見出す	第1次	1	○学習活動の一次ゴール（5年生へのメッセージ文を書く）と最終ゴール（映像メッセージのシナリオ）を知り、メッセージ文のモデルにより、一次ゴールのイメージを持つ。	・メッセージ文に盛り込まれる内容と文章構成を理解している。 [知・技] [思判表 書] ・次時までにはべきことを明確にしている。 [主]
自分で取り組む	第2次	課外	○メッセージの内容を構想し象徴する言葉を探し出す。	・粘り強く言葉を探したり選んだりしている。 [主]
		3	○自分のメッセージと言葉を伝えあう。 ○800字以内でメッセージ文を書く。 ○互いのメッセージ文を読み合い言葉とメッセージがうまくつながっているかどうかの視点でアドバイスをし合う。	・言葉とメッセージをわかりやすくつないだ表現を使って構想を伝え、メッセージ文を書いている。 [知・技] [思判表 書]
広め深める	第3次	1	○学習の最終ゴールのモデルを読み、シナリオに求められることを理解する。 ・いくつかの映像メッセージの例を視聴し、伝わりやすさや注意の引き方の工夫を学ぶ。 ・自分のメッセージ文をシナリオにしていく視点から読み直す。	・伝わりやすさの必要条件をつかんでいる。 [思判表 話聞] ・自分のメッセージ文を、シナリオにしていくためにどうすべきか考えている。 [主]
		2	○シナリオを書く。 ○書いたシナリオをもとに、個人で撮影のための練習を行う。	・視聴者を想像しながら、メッセージ文をシナリオにリメイクしている。 [思判表 話聞]

		2 / 2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループになって撮影のリハーサルを行う。 ・他者からのコメントもとにシナリオと話し方等の修正を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ割り当てられた視点で他者の発表を聞きコメントしている。 [思判表 話聞] ・コメントもとにどのように改善すべきか考えている。 [主]
まとめあげる	第5次	1	○シナリオをもとに映像メッセージの撮影をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のシナリオが実現できているかどうか自分で確認している。 [思判表 話聞] [主] ・リハーサルと比較したコメントを他者に伝えている。 [思判表 話聞]

5. 本時の指導（8／9）

（1）目標

- ・それぞれ割り当てられた視点で他者の発表を聞きコメントしている。 [思判表 話聞]
- 視点1 制限時間で収まるかどうかを確認し、必要に応じてカットする部分や膨らませるとよい部分についてコメントする。(タイムキーパー)
- 視点2 表情や視線、話し方、フリップの提示の仕方等にコメントする。(カメラマン)
- 視点3 原稿内容やフリップに表現されていることのわかりやすさ等、全体に対するコメントをする。(ディレクター)
- ・コメントもとにどのように改善すべきか考え、自分のシナリオを読み直し必要に応じて修正を加えることができる。 [思判表 話聞]
- ・本時の学習を経て、本番の撮影で特に気をつけたいところを明確にしている。 [主]

（2）展開

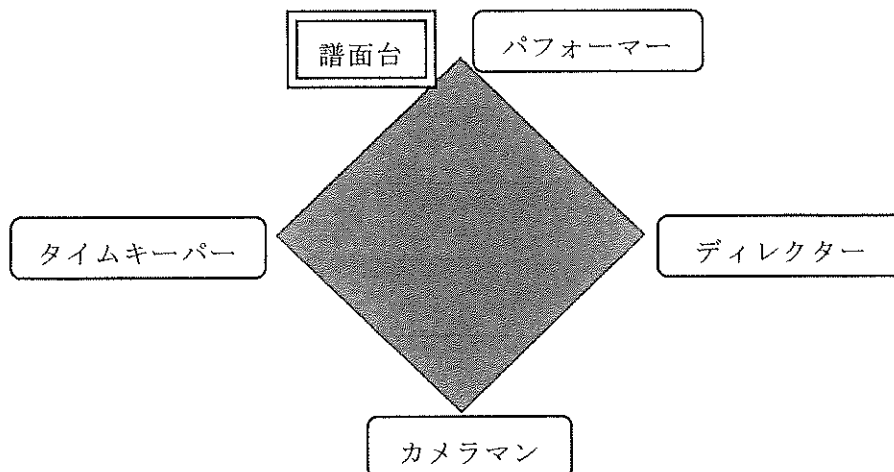
時配	学習内容と学習活動	○指導と支援	※評価	資料
7	<p>(全体)</p> <p>○本番前のリハーサルにあたって、意識すべきことを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>次は本番。リハーサルでよりよいメッセージにしていこう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「2分で収まっているかどうか確認してあげよう。オーバーしたり短すぎたりしたらシナリオを直す助言をしていこう。」 (タイムキーパー) ・「Aさんの時は表情を、B君の時は間の取り方と表情をよく見ていこう。」 (カメラマン) ・「流れがスムーズであつという間 	<p>(全体)</p> <p>○各係の役割を確認し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各係のポイントを示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのグループ内の友達の傾向から、発表者の特にどの部分を注視すべきか、明確にできるとよいことを伝える。 ・自分以外の友達のパフォーマンスを見る視点を具体化し、メモさせておく。 <p>※他者のパフォーマンスに対</p>	<p>○各係の役割が明記された分担当表</p> <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 〈Aさんのリハ〉 ・タイムキーパー B君 ・カメラマン Cさん ・ディレクター Dさん 〈B君のリハ〉 ・タイムキーパー

25	<p>の2分になっているか、確かめて、どこを工夫したらもっと伝わりやすいか助言しよう」 (ディレクター)</p> <p>○グループごとに分かれてリハーサルを行う。</p>	<p>する注視点を記している。 思判表 (話聞) (メモ)</p> <p>○各グループともディレクター役の進行で進めさせる。</p>	<p>Aさん……</p> <p>○各自が作成したシナリオ</p> <p>○譜面台 (フリップ提示用)</p>
<p>〈Aさんのパフォーマンス〉</p> <p>「(視線を上げる)5年生のみなさん、(間)私がみなさんに伝えたい言葉は、(フリップ提示)(少し大きめに発声)『痛みなくして得るものなし』という言葉です。(間)私はこの一年、はっきりとこの言葉が本当なんだ(強く)と感じのです。だからこそ今、みなさんにぜひ伝えたいのです。</p> <p>私たちにとって小学校最後の一年は特別なものでした。奪われてしまった行事がたくさんありました。入学式、運動会、青春まつり……一つ一つを考えると、今でも寂しい気持ちになることがあります。しかし(間)(ここから強めに訴えるように)(必ず視線を上げ、力強い目で)この痛みあったからこそ、私たちは新しい公津の杜小学校の歴史の中心にすることができました。(少し長い間)モリンピック、医療機関への励ましのメッセージ、虹ピクス。このピンチがなければ、寂しい思いをバネにしなければ……」</p> <hr/> <p>〈タイムキーパーのB君から〉</p> <p>・10秒ほど長くなってよ。どうしようか。内容を削るのはもったいないから、少し早めに話す部分を作ってもよいかもしれない。</p> <p>〈カメラマンのCさんから〉</p> <p>・フリップを指すシーンは、顔をフリップに方にちょっとだけでも向けたほうがいいよ。そして正面に向き直ったとき表情を柔らかくするといいと思うんだよな。6年生の優しく伝えているという感じももっと出るよ。</p> <p>〈ディレクターのDさんから〉</p> <p>・内容と内容をつなぐ言葉、最初の方の「だからこそ」とか、途中の「しかし」を強く発音すると、内容と内容との関係が聞き手にはっきりと伝わるのでわかりやすくなると思うよ。つなぎを大切にしていこう。」</p>			
10	<p>○自分のシナリオを読み直し、加筆修正を行う。</p> <p>・「フリップ直後に“笑顔で”と加えよう。」</p> <p>・「“だからこそ”よりも“それが……理由なのです”の方がわかりやすくなるな。」</p> <p>・「10秒オーバーは、最初の“5年生のみなさん”を削り、“という</p>	<p>○それぞれの指摘に対して、どう対応したのかを記録しておかせる。</p> <p>※改善につながるコメントを伝えている。</p> <p>※伝えられたことをもとにシナリオを見直したり修正したりしている。</p> <p>思判表 (話聞) (話し合い・</p>	<p>○コメント記録簿</p>

3	<p>言葉です”を“です”にしよう。]</p> <p>○本番の撮影で特に気をつけたいところを明確にする。</p> <p>・「今日のリハーサルでは、話している内容と内容のつながりということを意識できなかった。本番では、今話していることと、続く内容のつながりや関係をしっかりと意識しながら映像で表現し、相手に私の思いが伝わるようにしたい。」</p>	<p>コメント記録簿・シナリオ)</p> <p>○次の時間にどうしたいか・どうすべきかを具体的に表現させることで、本時の学習を振り返らせる。</p> <p>・コメント記録簿の「次に向けて・・・」の欄に書き込ませる。</p> <p>※次時のビジョンを具体的に記している。</p> <p>主 (コメント記録簿『次に向けて』の欄)</p>
---	--	--

本時の場の配置等

【グループの座席のレイアウト】



※リハーサルと本番は、多目的ホールを利用して学習を展開する。

板書計画

伝える、託す、
わたしの言葉、わたしの思い
『テイクオーバーゾーン』

次は本番。リハーサルでよりよい
メッセージにしていこう。

【係の役割】

タイムキーパー
時間と分量を確認。助言

カメラマン
話し方や表情。思いが伝わるような映像になるように助言

ディレクター
進行。全体を見てわかりやすく伝えられているかどうかを助言

【学習の流れ】

- ① リハーサル
- ② コメント
- ③ コメント記録簿へのメモ
- ④ 次に向けての振り返り

[資料 実態調査の項目]

1) つけたい力に関する実態

① 情報と情報の関係性をつかみ、適切な表現をつかっつなぐことができるか。

ア 情報間の関係性を的確につかむことができない。

イ 情報間の関係性を的確につかめるが双方を適切につなぐ表現を語彙として持っていない。

ウ 情報間の関係性を的確につかみ、双方を適切につないで表現できる。

② 相手に伝わりやすい話し方について理解しているか・実践できているか。

ア 相手に伝わりやすい話し方の必要条件を十分に理解している。

※必要条件 適切な声の大きさと話す速さ

聞き手への視線

強調する箇所、聞き手の注意を引く行為や表現（間・投げかけ）

身振りでの表現

イ 必要条件を一つでも自ら実現させて話すことができる。

・適切な声の大きさと話す速さ

・聞き手への視線

・強調する箇所、聞き手の注意を引く行為や表現

・身振りでの表現

③ 他者の話しぶりに対しての指摘が具体的にできるか。

ア 声の大きさ話す速さについて具体的な指摘ができる。

イ 話し手の視線について具体的な指摘ができる。

ウ 話された内容について具体的な指摘ができる。

エ 間や動作を取り入れ方、表現等について具体的な指摘ができる。

2) 表現する内容の準備状態に関する実態

① 5年生に伝えたい事柄を明確にすることができているか。

ア 5年生に伝えたい事柄、言葉が思いつかない状態にある。

イ 5年生に伝えておきたいことはあるが、それと結びつく言葉が見つからない状態にある。

ウ 5年生に伝えたい言葉とそれに因んだエピソードや伝えたい事柄が思い浮かんでいる。

○講師からの講評

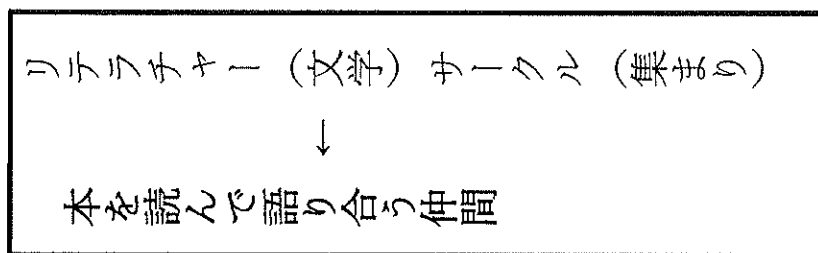
- ・指導計画からつけたい力が明確であった。
- ・働きかけが大切な単元である。5年生に伝える切実感が意欲に繋がっていた。
- ・映像によるパフォーマンスは、特に必要条件を精査しなければならない。加工ができる(映像・音声)からこそ、声の大きさなどは重要視しなくてもよくなる。児童で見合う場面では、声の大きさなど加工できるものは、指摘事項に入れなくてもよい。
- ・メッセージ文からシナリオを作る活動の中で、言語操作や情報操作(内容)を意識できていた。
- ・本字の活動の三つの役割が目標と重なっている。(カメラマン・ディレクター・)
- ・映像で撮ることによって、メタ認知につながる活動となっていた。

【様々な視点で読書を楽しもう。】

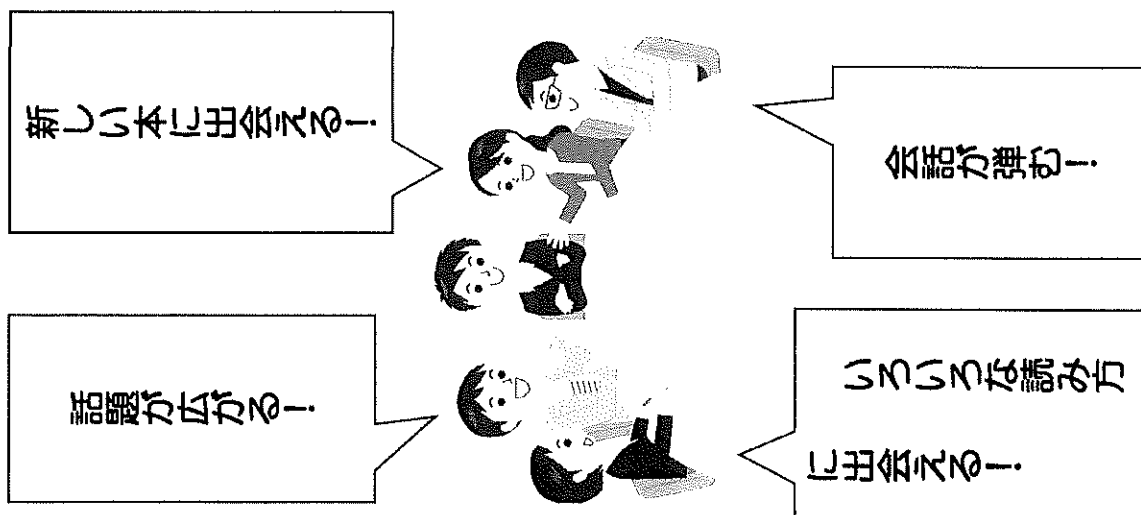
〜リテラチャーサークルに挑戦〜

1. リテラチャーサークルとは…

好きな本を選んだ人どうしが少人数グループになり、それぞれに同じ部分を違う読み方で読んで話し合う読書法です。



2. 「リテラチャーサークル」をすると…



3. リテラチャーサークルの役割分担（一人・一役）

役割の名前	仕事の内容	担当者
思い出し係（コネクター）	本と自分とのつながりを見つける	
質問係（クエスチョナー）	疑問を見つける	
照明係（リテラリー・ルミナリー）	特別などところを取り上げる	
イラスト係（イラストレーター）	目に浮かんだ情景などを絵や図にする。	

4. 「リテラチャーサークル」のやり方

①	・これから読む本の候補の紹介を聞く。
②	・紹介された本の中から読みたい本を選んだ、グループ4人(あるいは3人)で行う。
③	・グループで読む範囲を決める。 (15分間本を読む時間を取ります。何ページから何ページまで読むか決める。お互いの読むスピードを考えて決める。)
④	・一人一役、役割分担する。 (詳しくは「役割シート」を見てください。)
⑤	・自分の役割で、決めた範囲を読む。 (早く終わっても先を読むのではなく、もう一度読み返したり役割シートを書く。)
⑥	・一人ひとり自分の役割で考えたことを話題にして話し合う。
⑦	・最後に全体を振り返って、言い忘れたり、言い足りなかったりしたことを離しましょう。
⑧	・時間があればクラス全体で話し合った内容を共有しましょう。

※この③～⑥を何回か繰り返して、何日かかけて一冊の本を読み切るのが、リテラチャーサークルです。役割は毎回違うものにチャレンジするようにしましょう。

◎リテラチャーサークルは、一人ひとりの役割でどんなことを
話題にすればよいのだろうか？

○思い出し係【コネクター】をめぐる話し合い

思い出し係が、シートに書いた「思い出したこと」を順番に話します。どうしてそんなことを思ったり、考えたりしたのかも説明しましょう。ひとつ話されるたびに、みんなが話し合います。

思い出し係の発表が終わったあと、他のメンバーの「思い出したこと」を話し合しましょう。

○質問係【クエスチョナー】をめぐる話し合い

質問係が、シートにそって、読んで出てきた質問や疑問を紹介します。理由や自分なりの答えがあたら、それも話しましょう。ひとつひとつの質問の答えを探して話し合しましょう。

質問係の発表が終わったあと、他のメンバーの疑問や質問も出し合ってみましょう。

○照明係【リテラリー・ルミナリー】をめぐる話し合い

照明係は、本で印象に残ったところにスポットライトを当てる係です。抜き出した文章を読み上げ、取り上げた理由を話してください。一つの文章が紹介されることに他の人が感想を言います。

照明係の発表が終わったあと、他のメンバーからも「感動した部分」「うまい表現」などを出してもらいましょう。

○イラスト係【イラストレーター】をめぐる話し合い

イラスト係は、本からイメージした絵を描いて、何の説明もしないで描いた絵を見せます。見せられたメンバーは、それが本のどの部分について描かれたものをあてるために話し合います。絵が何枚かあれば、順番に見て、話し合います。

そのあとで、たねあかし。イラスト係は何を描いたのか、どうしてこういう絵になったかを説明してください。それについてまた話し合しましょう。何が描いてあるか、何が描いていないかにも注目して。

「自分ならこう描くだろう」という意見も出てくるでしょう。他のメンバーが「絵にしたいと思った部分」についても話し合しましょう。

月 日

リテラチャーサークル役割シート

コネクター ～思い出し係～

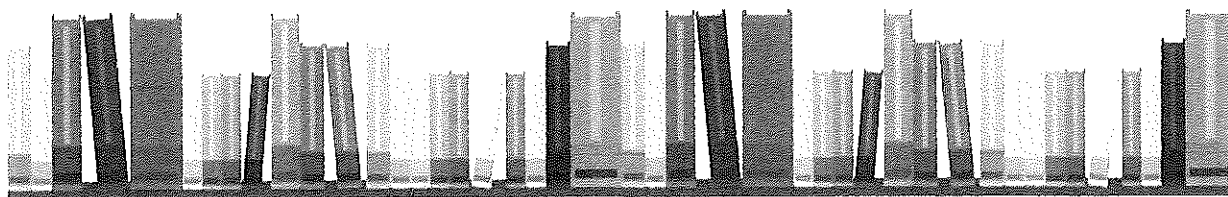
担当者名

【本のタイトル】

--	--

【読んだページ】 () ページ～ () ページ

「コネクター」の仕事は「本」と「自分」、あるいは「本」と「広い世界」との間に、つながりを見つけることです。つながりとは、本を読んだことで思い出した、「自分の経験」「テレビで見たこと」「他の本や新聞に書いてあったこと」「想像したこと」などを指します。思いついたら、下の欄に書き出し、どうしてそう思ったのかもメモしておきましょう。



月 日

リテラチャーサークル役割シート

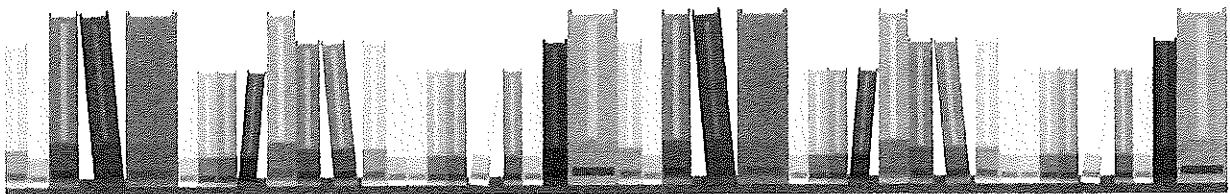
クエスチョナー～質問係～

担当者名 _____

【本のタイトル】

【読んだページ】 () ページ～ () ページ

「クエスチョナー」の仕事は、本を読んで疑問に思ったり、分からなかったり、違うのではないかと思ったりしたことを質問することです、たとえば、どうしてそんなことをしてしまったのかという登場人物の行動やセリフの理由、意味の分からない表現、今後の展開など、疑問を見つけて下の欄にメモしておきましょう。



月 日

リテラチャーサークル役割シート

リテラリー・ルミナリー～照明係～

担当者名 _____

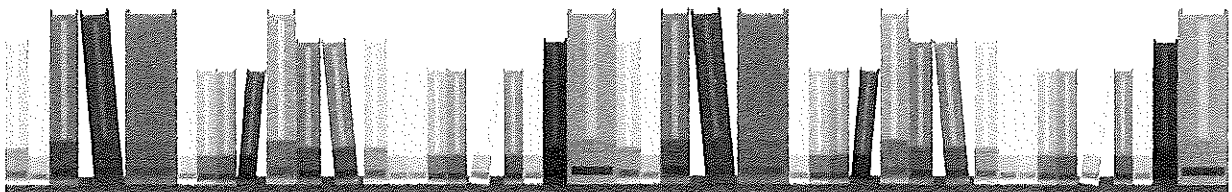
【本のタイトル】

--

【読んだページ】 () ページ～ () ページ

「リテラリー・ルミナリー」の仕事は、特別に心に残ったところを選んで紹介することです。心に残った場面やセリフ、おもしろかったところ、覚えておきたいと思ったところなどをメモしておきましょう。長さは一行でも数ページでもかまいません。どうしてその部分を選んだのかの理由も書いておきましょう。

ページ・行	選んだ理由



月 日

リテラチャーサークル役割シート

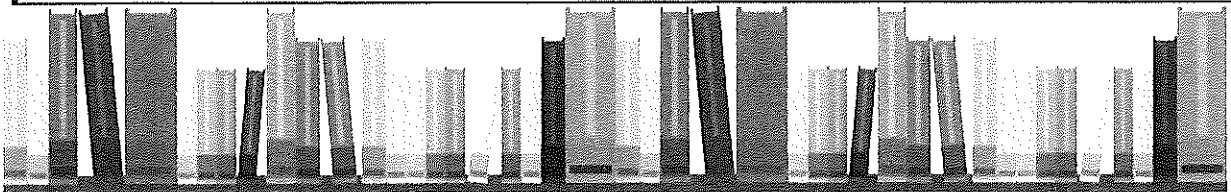
イラストレーター～イラスト係～

担当者名 _____

【本のタイトル】

【読んだページ】 () ページ～ () ページ

「イラストレーター」の仕事は、本の中の好きな場面を絵にして皆に紹介することです。文章から思い浮かぶ映像、場面、風景、登場人物など、スケッチでもマンガでも図でもいいので、下のスペースに書いてください。必要ならばそこに文字を書き入れてもかまいません。どの場面の何を描いた絵なのか、あとでみんなにあててもらいましょう。



【「伝える 託す 私の言葉 私の思い」①】

～映像メッセージ「ライクオーバーゾーン」をつくる～

名前()

◎五年生に伝える、小学校時代で今も心に残る言葉

①心に残る語句・漢字

②心に残る文章（表現）

③心に残る本、歌

④心に残る友達や先生、家族の言葉

⑤その他、心に残る言葉

【「伝える 託す 私の言葉 私の思い」②】

～映像メッセージ「マイクオーバーゾーン」をつくる～

名前()

◎5年生に伝えたい 託す 言葉

○その 思いを出発点としたのか

○おまじの言葉にしたのか

○その言葉についてMSHグループ、5年生に伝えたいこと

【グループになって映像のリハーサルを行おう。】

リハーサルでよりよいメッセージにしていこう。

【系の役割】

○タイムキーパー

- ・ 制限時間で収まるかどうかを確認し、必要に応じてカットする部分や膨らませるとよい部分についてコメントする。

○カメラマン

- ・ 表情や視線、話し方、フリップの提示の仕方等にコメントする。

○ディレクター

- ・ 原稿内容やフリップに表現されていることのわかりやすさなど、全体に対するコメントをする。

【伝える 託す 私の言葉 私の思い】

「テイクオーバーゾーン」を作る

名前()

次は本番。リハーサルでよりよいメッセージにしていく。

○役割分担

発表者	自分の役割	コメント

○本番に向けての振り返り

--